

事業報告書

第9期 (令和6年8月1日～令和7年7月31日)

一般社団法人ハビリスジャパン

第9期（令和6年8月1日～令和7年7月31日）事業報告書

I 法人の概況

1. 設立年月日

平成28年8月1日

2. 定款に定める目的

当法人は、義肢を必要とする子ども達と、様々な障がいがある子ども達の社会参加に関わる総合的な支援体制を確立することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 障がいのある子ども達の社会参加の支援事業
- (2) リハビリテーション・ハビリテーションの教育・啓蒙事業
- (3) 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発・調査研究事業
- (4) 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等のレンタル事業
- (5) その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

4. 会員の状況

個人会員 183名、コーポレート会員 17社

5. 主たる事務所の状況

主たる事務所：東京都港区港南2-16-1 品川イーストワントワー4階

6. 役員等に関する事項

役職	氏名	常勤・非常勤の別	現職
理事長	長野洋	非常勤	
理事	松井秀文	非常勤	
理事	上田啓子	非常勤	弁護士
理事	藤原清香	非常勤	医師
監事	北村浩志	非常勤	税理士
監事	田井務	非常勤	

7. 職員（常勤）に関する事項

職員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男子	0名	0名	—
女子	0名	0名	—

II 事業の状況

1. 事業の実施状況

(1) 障害のある子ども達の社会参加の支援事業

イベントは、主催 21 回、共催 4 回、協力 4 回開催した。

① 令和 6 年 8 月 10 日、9 月 14 日、10 月 19 日、11 月 16 日、12 月 21 日

令和 7 年 1 月 18 日、2 月 15 日、3 月 15 日、4 月 19 日、5 月 17 日、6 月 21 日、7 月 19 日

パラテコンドー教室 (協賛: 炎武館)

今年も毎月、オンラインと対面の併催形式で開催したが、8 月と 12 月は対面のみで実施した。

3 歳から高校生まで、多くの子どもたちが参加した。けんた先生こと阿渡健太選手の掛け声に合わせ、子どもも大人も一緒に身体を動かし、声を出したり、足を高く上げたり、回転キックに挑戦したりしながら、互いに競い合って楽しんだ。子どもたちの練習中の真剣な眼差しや、仲間と励まし合いながら技をやり切る姿は、クルーにとっても毎回大きな刺激となっている。

② 令和 6 年 8 月 4 日: 手と指のケア講座 in 北海道

(協賛: OPI、医療法人社団ほっとステーション)

子どもから大人まで 9 組の参加者が集まり、付き添いの保護者やスタッフも参加した。アイスブレイクの後、手や足のケアが始まると緊張していた参加者も笑顔となり、部屋の雰囲気が一変した。ネイリストの指導により「手は顔と同じくケアが大切」「年齢とともに表れる変化」「手のケアで美しくなる」といった知識を学び、好きな色のネイルを塗ることで子どもも大人も自然に笑顔になった。手を美しくすることが使い方や物の扱い方、自身の自己肯定感にもつながることを実感する場となった。ネイリスト、医師、作業療法士など多職種の協力により、安全かつ充実した内容で開催できた。

③ 令和 6 年 10 月 20 日: みんな集まれ！ 秋フェスタ！ in 旭川

初めて旭川でイベントを開催した。旭川在住のイベントクルー、パラスポーツ選手、医療職などの協力のもと、パラスポーツ体験、義手・義足体験、スライドリコーダー、スイッチ体験など、多様な挑戦ができる内容を企画した。子どもたちはスタンプラリー形式で各ブースを回り、楽しそうに取り組む姿が印象的であった。また、体力測定では真剣な表情で挑戦する様子が見られた。

④ 令和 6 年 11 月 30 日: 運動教室&大泉スワロー発表会

練習日) 11 月 3 日/11 月 17 日/11 月 24 日

(協賛: 大泉スワローフィールド)

今年は小学生 2 名、幼稚園児 4 名が参加した。3 日間の特別練習では年齢や個々の特性に応じた表現方法で演技を練習した。最初は先生や保護者のサポートを必要としていた子どもたちも、回を重ねるごとに自分で演技をこなせるように成長した。本番では大きな体育館での発表に緊張する様子も見られたが、順番が回ると堂々と演技を披露し、中には賞を受賞した子どももいた。「いっぱい練習したからできた」「楽しかった」と笑顔で話す姿が印象的であった。

⑤ 令和7年3月2日:てつぼう教室

(協賛:大泉スワローボードクラブ)

初めは鉄棒で義手を取り外す動作から練習を開始した。子どもたちはフックがうまく引っかかるよう何度も挑戦し、回数を重ねるごとに着実に上達した。次に前回りに挑戦し、義手を鉄棒にしっかりと引っ掛けながら回ることができ、嬉しそうな笑顔が心に残った。保護者も立松先生から安全なサポート方法を学び、自宅近くの公園で子どもと一緒に練習できる体制を整えた。

⑥ 令和7年3月20日:スキー・スノーボード教室 in 越後湯沢

(協賛:公益財団法人日本障害者スキー連盟)

今年は初めて新潟県のGALA湯沢スキー場にてスキー教室を開催した。日本障害者スキー連盟の先生の指導のもと、子どもたちは笑顔でスキーに挑戦した。初めはスキー板の履き方や基本の動きを学び、午前中から先生とともにリフトに乗り、繰り返し滑るうちに徐々に自信をつけていった。滑り降りてくるたびに上達しており、子どもたちの成長と楽しむ姿が印象的であった。

⑦ 令和7年5月18日: 大阪PAFF 長居であそぼ! KIDS ミーティング 2025

(協賛:大阪市長居障がい者スポーツセンター)

午前はボール投げや連続跳び、25m走などの体力測定を行い、子どもたちは全力で取り組んでいた。ゴールテープを切る子どもたちの笑顔は輝いていた。午後は子どもも大人も共にレクリエーションを楽しみ、綱引き、いろおに、サザエさん体操、リレーなどさまざまな種目で盛り上がった。あそびを通じて参加者が「つながる」「知る」「広がる」場となった。

⑧ 令和7年4月-12月(全12回) UTSSI 大泉スワロー教室

(主催:大泉スワローボードクラブ 主管:東京大学スポーツ先端科学連携研究機構)

共催:ハビリスジャパン 後援:公益財団法人スポーツ安全協会 / 日本作業療法士協会)

2025年4月より、大泉スワロー教室が開講した。ハビリスジャパンは共催した。本教室は、学校体育で行われる運動を中心に、手足に特徴のある子どもが楽しく体を動かせる新しい運動教室である。器械運動、縄跳び、水泳などを一年を通じて専門の先生とともに体験できる。運動が得意でさらに挑戦したい子ども、学校の体育に不安がある子ども、どの運動ができるか試してみたい子どもを対象としている。医療スタッフも参加し、保護者は見学しながら補助や練習方法を学べる場となっている。全12回で、令和7年12月まで開催される予定である。

⑨ 令和7年2月14日、3月16日: ブレイクダンスイベント

令和7年6月29日、7月6日:UTSSI Kids Sporting School 自分に合ったダンスで体を動かそう!

(主催:東京ドームスポーツ 主管:東京大学スポーツ先端科学連携研究機構)

協力:ハビリスジャパン 後援:一般社団法人日本作業療法士協会)

2025年2月より定期的に開催しているブレイクダンスイベントに協力の形で参加した。本イベントは「自分に合ったダンスで体を動かそう!」をテーマに、Breaking(ブレイキン)やフィンガーダンスに挑戦した。定期開催であることから、参加者同士の交流の場ともなっている。

(2) リハビリテーション・ハビリテーションの教育・啓蒙事業

① 教育セミナー開催

主催イベントを2回開催した。

(ア) 令和6年9月1日：Skills For Life Japan

(共催：ISPO日本支部 協力：横浜市総合リハビリテーションセンター

後援：一般社団法人日本作業療法士協会)

2020年より5回にわたり開催してきた「義手ミーティング」は、「Skills for Life Japan」としてリニューアルした。今後は、義手に関する情報交換会を専門職向けと一般ユーザー向けに交互で開催する予定である。今年は医療専門職を対象に、症例検討を含む情報交換会「Skills for Life Japan for Professionals」を開催した。プログラムは、症例相談会、すごい義手の紹介、その他情報提供であった。現地およびオンライン合わせて100名以上が参加した。

(イ) 令和7年3月2日：講演会 手足に特徴のある子ども達のスポーツ参加と現場における課題

(協賛：大泉スワローハーツクラブ)

鉄棒教室の前に藤原清香先生より手足に特徴のある子どもが体育の授業に参加できる環境を整える重要性について、講演いただいた。講演の中で、適切な指導と必要に応じた道具の活用により、健側と特徴のある部分を動かしていくこと、また子どもが「できた」という体験を積むことが自信につながり、将来にわたり健康な体の維持にも寄与するとの内容であった。普段聞くことができない講演会に真剣に聞いている姿が印象的であった。

② 家族交流会での情報交換会

主催イベントを8回開催した。

(ア) 令和6年8月10日、9月14日、10月19日、11月16日

令和7年1月18日、2月15日、3月15日

オンラインしゃべり場 ～悩みや不安を相談してみませんか？～

手足に欠損のある子ども達、その家族を対象に同様の障がいがある先輩に相談できるイベント、しゃべり場を令和6年8月から令和7年3月まで開催した。先輩に様々な悩み、相談、質問など活発な相談および話し合いの場となっている。オンラインを活かし全国のご家族と毎回楽しく家族交流を行うことができた。子ども達や家族から沢山の相談や質問があった。来年はより多くのご家族に参加してもらえるようリニューアルする予定である。

(イ) 令和6年12月21日：ハビリスジャパン家族交流会 after パラテコ教室

参加者がお互いの習い事や挑戦していることをテーマに話を行った。それぞれの子どもの経験や工夫を共有する場となった。先輩も参加することで先輩にも相談できる場となり、活発な意見交換を行うことができた。

③ 専用サイト運用 [アドレス (<https://habilisjapan.com>)]

当法人のHPを訪れた人に広く情報を発信した。

④ ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の専用アカウントによる情報発信
Facebook、Twitter、Instagram ならびに YouTube の専用アカウントで、イベントで得られた情報を発信した。特に今年度は Instagram に注力してイベントの告知にとどまらず、実施した報告や参加者の声など多くの投稿を行った。現在、フォロワー数は 550 人を突破した。

⑤ 絵本を通じた啓発活動

絵本を通して対象児及び家族が義肢や当法人について知る機会を提供するため、絵本「いろんなおててとぼく」の販売を引き続き行っている。

(3) 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発・調査研究事業

① スライドリコーダーの製品化に向けた取り組み

第 54 回（2023 年度）三菱財団社会福祉事業・研究助成（令和 5 年 10 月～令和 7 年 9 月）において、「スライドリコーダーの製品化と障害のある児童への適応評価、有用性の実証と普及支援活動」として 5,700,000 円の助成を受けた。適応のある子どもの検討や有用性の評価を行うとともに、スライドリコーダーについて広く知ってもらうための情報発信に取り組んだ。

開催したイベントおよび演奏会は下記の通りである

(ア) スライドリコーダー体験会 計 3 回実施

- ・令和 6 年 8 月 4 日：スライドリコーダー体験会 in 北海道札幌
- ・令和 6 年 10 月 20 日：スライドリコーダー体験会 in 北海道旭川
- ・令和 7 年 5 月 18 日：スライドリコーダー体験会 in 大阪長居

体験会では、6 穴・8 穴、咥え型・吹き型といった様々なバリエーションについて色やスライドの感想を伺った。参加者は初めて目にするリコーダーに興味津々で、「どんな音が出るのか」「どこがスライドするのか」と楽しそうに観察していた。最初に先生たちが「メリーさんの羊」や「ホット・クロス・パン」を演奏した。その後の練習タイムでは、スライドや吹き加減に苦戦する場面もあったが、繰り返し練習することで次第に感覚を掴み、「メリーさんの羊」を演奏できるまで上達した。アンケートでは色や形、大きさに関する貴重な意見が寄せられ、今後の開発に活かす予定である。演奏のしやすさと安全性の高さを両立したリコーダーの開発に反映させていく。

(イ) スライドリコーダー演奏会 計 2 回実施、練習日として 3 回実施

- ・令和 6 年 9 月 7 日：小児リハビリテーション学会、東京未来大学小ホール
- ・令和 6 年 10 月 6 日：ダイバーシティ・パーク 2024in 新宿、新宿中央公園

練習日）令和 6 年 7 月 28 日、8 月 24 日、9 月 23 日

練習日を 3 回設け、音楽の先生のもとでみんなと一緒に練習することから始めた。演奏会では、子どもたちは当初、緊張と楽しさが入り混じった表情を見せていましたが、観客の温かい手拍子に包まれ、最後にはステージで堂々と演奏することができた。リコーダーは片手でスライドさせたり、椅子に座って足でスライドさせたり、ハンドベルや鉄琴を叩いたりと、それぞれ工夫して演奏した。仲間や観客と一緒に音楽を楽しむ姿が印象的であった。会場は温かい雰囲気に包まれ、多くの拍手を受けながら演奏を終えた。新宿のイベントでは一般の方々に活動を知っていただく機会となり、学会では専門職の方々に活動を紹介する場となった。

② イベントを通じたアンケート結果とデータ分析・地方開催の実現

今年度も各イベント実施時に参加者家族にイベントに関するアンケートを実施し、子ども達と家族からはイベント参加によって良い変化があったとの声が寄せられた。北海道、大阪でのイベント開催時には、体力測定および生活習慣に関するアンケートを実施した。

(4) 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等のレンタル事業

今年はスキッピー（縄跳び用パーツ）のレンタルを開始し、7名に貸し出した。また、Tamtam（マット運動用パーツ）を4名、Hamo（鉄棒用パーツ）を3名に新たに貸与した。

(5) その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

① 会員、寄付者、提携サポーターの募集活動

本法人の目的を広く認知していただくために、ハビリス会員、コーポレート会員、寄附者の募集を行った。第9期はハビリス会員が170名から183名、賛助会員が14社から17社となった。寄附者は5社/101名から7社/80名となった。

② 「NPO 法人二枚目の名刺」主催のサポートプロジェクトとの連携

様々なバックグラウンドをもつ社会人と非営利団体が一つのチームとなって課題解決に取り組む有期サポートプロジェクトに、令和6年10月から1月の約3ヶ月間参画した。現在ハビリスジャパンが抱える課題を共有し、課題解決に向けて一緒に取り組んだ。成果は認知拡大、企業へのアプローチ、義肢レンタル事業の見直し、中期目標の策定などであった。現在、このプロジェクトで関わったメンバー数名が新たなメンバーとしてハビリスジャパンに加入した。

③ 各法人・団体・個人との連携・協力体制の構築と継続的な情報交換（敬称略）

今年度は、東京新橋ロータリークラブ、東京大学医学部附属病院リハビリテーション科、東京大学スポーツ先端科学連携研究機構、大泉スワロービースクラブ、大阪市長居障がい者スポーツセンター、㈱東鋼、㈱今仙技術研究所、炫武館、ISPO日本支部、公益財団法人日本障害者スキー連盟、OPI、医療法人社団ほっとステーションのご協力があり多様なイベントを開催することができた。

④ その他

(ア) 公益財団法人三菱財団より「スライドリコーダーの製品化と障害のある児童への適応評価

有用性の実証と普及支援活動」に助成金額570万円を得ており2023年10月～事業を行っている。

(イ)

主な事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所
障がいのある子ども達の社会参加の支援事業	PAFF パラテコンドー教室	2024/08/10 2024/09/14 2024/10/19 2024/11/16 2024/12/21 2025/01/18 2025/02/15 2025/03/15 2025/04/19 2025/05/17	炫武館・対面 オンライン併用
	手と指のケア講座 in 北海道	2024/08/04	医療法人ほっとステーション・対面
	みんな集まれ！秋フェスタ！ in 旭川	2024/10/20	旭川・対面
	運動教室&大泉スワロー発表会	2024/11/03 2024/11/17 2024/11/24 2024/11/30	大泉スワローハーツ・対面
	てつぼう教室	2025/03/02	大泉スワローハーツ・対面
	スキー・スノーボード教室 in 越後湯沢	2025/03/20	新潟、越後湯沢・対面
	大阪 PAFF 長居であそぼ！ KIDS ミーティング 2025	2025/05/18	長居スポーツセンター・対面
	UTSSI 大泉スワロー教室	2025/04~12	大泉スワローハーツ・対面
	ブレイクダンスイベント	2025/02/14 2025/03/16	東京ドームスポーツ・対面
	UTSSI Kids Sporting School 自分に合ったダンスで体を動かそう！	2025/06/29 2025/07/06	東京ドームスポーツ・対面
リハビリテーション・ハビリテーションの教育・啓蒙事業	[教育セミナー] Skills For Life Japan	2024/09/01	横浜市総合リハビリテーションセンター・対面
	講演会	2025/03/02	大泉スワローハーツ・対面
	[情報交換会] しゃべり場	2024/08/10 2024/09/14 2024/10/19 2024/11/16 2025/01/18 2025/02/15 2025/03/15	オンライン

	家族交流会 HP、Instagram、Facebook 上での上記イベントの報告書作成と掲載	2024/12/21	関内・対面 (報告書) 当法人 HP/Facebook/ Instagram
小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発・調査研究事業	PAFF イベントでのアンケート 体力や生活習慣についてのアンケート スライドリコーダー体験会 スライドリコーダー演奏会 練習日 2024/7/28 2024/8/24 2024/9/23	随時 2024/8/4 2024/10/2 2025/5/18 2024/10/6 2024/9/7 2024/7/28 2024/8/24 2024/9/23	随時 北海道札幌・対面 北海道旭川・対面 大阪長居・対面 ダイバーシティ・パーク 2024in 新宿、新宿中央公園 小児リハビリテーション学会 東京未来大学小ホール 東京未来大学
小児用アクティビティ・日常生活用義肢等のレンタル事業	TRS 社 Shroom Tumbler/ 今仙義肢 Tamtam-Hamo・スキッピーの貸与	随時	随時

その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所
その他、当法人の目的を達成するために必要な事業	フライヤー作成・会報発行等による広報活動	随時	法人事務所

2. 重要な契約に関する事項

該当事項なし

3. 役員会等に関する事項

(1) 理事会・社員総会について

実施年月日

令和 6 年 10 月 17 日 第 35 回 理事会
令和 6 年 10 月 31 日 第 19 回 社員総会
令和 6 年 10 月 31 日 第 36 回 理事会
令和 7 年 2 月 20 日 第 37 回 理事会
令和 7 年 7 月 17 日 第 38 回 理事会
令和 7 年 7 月 31 日 第 20 回 社員総会

(2) 専門部会について

役職	氏名	常勤・非常勤の別	現職
専門部会長	大西謙吾	非常勤	大学教員（工学）

4. 収支及び正味財産増減の状況並びに財産の状態の推移

単位：円

事業年度	令和7年7月期
正味財産収益合計	7,912,953
正味財産費用合計	7,877,645
正味財産増減額	-34,692
資産合計	12,282,176
負債合計	102,660
正味財産	12,179,516

III 法人の課題

事業拡大と持続的な活動を目指し、運営クルーを増員し、チームごとに事業を分担する体制を整えた。さらに、地域ごとのイベントは各地のクルー（北海道・大阪）が主体となって運営する体制へと発展した。これにより、今年度はイベント運営の円滑化、開催数の増加、SNSを活用した情報発信の強化を実現した。しかし、活動を継続・発展させるためには、持続可能な運営体制のさらなる整備が不可欠である。全員が本業を持ちながら関わっているため、無理なく活動を続けられるよう、互いに支え合う仕組みの構築を引き続き目指していく。

運営基盤については、現状では助成金への依存度が高く、安定性に課題が残る。今後は会員や寄付者との関係をさらに深め、会員継続率の向上や会費・寄付収入の安定化を図る必要がある。また、多様な資金調達手段の検討を進めるとともに、広域的な事業展開や社会啓発を目的とした情報発信基盤の整備を継続的に推進していくことが求められる。

IV 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実

なし

第9期(令和6年8月1日～令和7年7月31日)事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」が
存在しないので作成しない